
俺ステーション

月影の幻鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺ステーション

【Nコード】

N9908H

【作者名】

月影の幻鳥

【あらすじ】

この世界は腐っている。こんな世界、滅びた方がましだ！！とキラ的な思想を持つ脱力キャラ『相沢』のライフスタイル！

学校でいらなくね？

リリリリリリリッ！！

（目覚まし時計の鳴る音）

相沢「るっせえ！！」

バギッ！！（目覚まし時計の壊れる音）

相沢「あゝゝ眠い！てか、また目覚まし時計壊しちゃったな。いや、勝手に壊れちゃったな。うん、そうだな、きっと。」

母「光希ー！今日から学校でしょ！早くしなさい！！」

相沢「るっせえな、ババアが！アイツもこの目覚まし時計みたいに
してやるのかな。」

俺は、相沢光希。

春休みが終わり、今日から高校生としての新しい生活が始まる。
と言っても、中高一貫だから新鮮味がまるでない。

仕方なく朝食を食べ、学校へ向かった。

佐伯「よう、相沢。」

相沢「おう。」

国弘「遅刻する方に賭けてたのにな。」

太刀掛「A H Y A ! セブンでクーリッシュおこれよ、ちゃんと！」

相沢「何だよ、俺で賭けしてたのか？人権問題だ。国弘、俺にもおこれよ！」

国弘「マジで!？」

佐伯「てか、何か高校生になった気がしないな。」

相沢「みんなそうだろ。どうせ今日は入学式して校長のクソ面白いありがたいたくない話を強制的に聞かされて解散だろ？つか、入学式なくていいし。中高一貫だからなくていいし！」

太刀掛「校長死ねー！！A H Y A h y a h y a h y a ! !」

相沢「うるせえぞ、障害者。」

佐伯「じゃあさ、帰りにオケカラ行こうZ E ! 平日だから安いし！」

国弘「いいセンスだ!！」

太刀掛「オラも行くーよ!！」

相沢「うるせえぞ、障害者！」

こうして、高校生活スタート!!

授業には一狩り行こうZE!!

基本、授業は受けない。

ノートもとらない。

たいていは猛獣狩りをしたり、戦争根絶の為に戦っている。

今日は佐伯とティガレックスを討伐しに行く予定。

佐伯と俺はクラスが違うが、授業中もオンラインで交流している。

相沢

「お、集会所来たな。」

早速、俺の繋クエのティガレックスを討伐しに向かう。

しばらくして、席が隣りの国弘がのぞき込んできた。

国弘

「何やってんの？ガンガン？」

相沢

「今日はモンハン。」

国弘

「授業放棄か。最低だな。」

相沢

「うるせえよ！お前だってさっきまで寝てただろ。俺は今、村人達の平和の為に戦ってるんだよ。」

国弘

「寝てないよ。妄想してたんだよ。」

相沢

「あつそ。」

国弘

「ハガレンのウィンリーで妄想してた。」

相沢

「あつそ！」

国弘

「ウィンリーがエドと…」

相沢

「うるせえよ！気になるだろ！集中出来ないだろ！！俺今頑張ってるから！音量0の世界でバサルモスの防具で頑張ってるから！！」

国弘

「あのさ。」

相沢

「お、足引きずったな！」

国弘

「おゝい！」

相沢

「やった！佐伯ティガレックス倒した！あいつランスうまいな。」

国弘

「無視るな。」

相沢

「さっきから何だよ？」

国弘

「いや、廊下から小林先生見てるんだけど。」

相沢

「え？マジで!？」

恐る恐る振り向くと、小林先生と目が合った。

小林先生

「それ没収。」

相沢

「ちょ！ちょっと待って！！まだティガレックス剥ぎ取ってないから！」

小林先生

「ちよつと職員室まで来い!!」

教室のざわめきもおさまり、授業が再開。

国弘

「馬鹿だなあ、あいつ。」

そう言つて国弘はカバンからPSPを取り出した。

午後ティーってたまに飲みたくなるよね

国弘

「昨日はPSP小林先生に見つかって、馬鹿したね。」

相沢

「うるせえ。」

太刀掛

「大変だった？」

相沢

「当たり前だろ！学年担任だぞ、あいつ！PSP中間テスト終了後まで没収だつてさ。おまけに所持してたジャンプもとられたよ。」

太刀掛

「あゝ昨日月曜だったな。俺も今日帰りに立ち読みしよつと。」

相沢

「俺のPSPとジャンプ返せー！！！！15500円と230円返せー！！！！てか、ジャンプとか中間テスト終了後に返されても内容がアレだから！！！」

佐伯

「俺のことチクってないよね？」

相沢

「ああ、大丈夫だよ。」

佐伯

「おゝ、友よゝ！」

太刀掛

「てか、コバティー面倒くさいなゝ！」

相沢

「コバティー…？」

国弘

「何か響きいいなゝ。午後ティーみたいな感じで！」

相沢

「午後ティーって響きいいのか！？」

佐伯

「じゃあ、お前アレか！？オンライン出来ないの！？授業中出来ないの！？」

相沢

「本体もメモリーもUMDもとられたからな。授業中暇になるなゝ………よし、取り返すかな！」

国弘

「取り返す？」

相沢

「俺のピーチ姫を憎きコバティーから救い出す！って事だよ。」

国弘

「いいセンスだ!!」

太刀掛

「どこに在るか分かるの？」

相沢

「コバティーの机の中、つまりは職員室に侵入する事になるな。」

太刀掛

「簡単に言っなく、お前。」

佐伯

「じゃあ、いつやる？」

相沢

「んなこと決まってる、今日だ!!」

こうして、PSP奪還プロジェクトが始まった！

PSP奪還作戦！

佐伯

「作戦はこうだ！」

- 1、授業に抜け出す。
- 2、職員室にお邪魔する。
- 3、コバティーの机からPSP奪還！
- 4、モンハンで一狩り行こうZE！！

佐伯

「こんな感じでどうよ。」

相沢

「了解！」

国弘

「どうやって授業中抜け出すわけ？」

太刀掛

「トイレ行きたいんで……とか。」

佐伯

「となると、タイムリミットは長くて10分が限界だろな。」

国弘

「今回のミッションには急速な対応が要求されます。しかし、このミッションに成功した場合、あなたの評価は高くなるでしょう。健

闘を祈ります。」

相沢

「若干アーマード・コアパクってるな。まあ、了解！」

そして、3時限目のコバティの授業が始まった。

小林先生

「サ行変格活用 of 動詞は…。」

国弘

「そろそろだな。何かあったらメールしてくれ。」

太刀掛

「YOUイツチャイナYO！」

相沢

「黙ってる、障害。」

そう言って、相沢は手を挙げた。

小林先生

「どうした、相沢。」

相沢

「先生、ちょ、腹痛いんでマジ痛いんでトイレ行ってきていいです」

か？」

小林先生

「はい、どうぞ。」

腹を痛がるようにして、廊下に出た。

相沢

「は！単純バカめ！待ってるよ！俺のPSP！」

廊下をゆるいスピードで走り、階段を下りると足音が聞こえてきた。

相沢

「誰か居んのか！？」

こっそり覗くと校長が居た。どうやら、授業の見回りをしているようだ。

相沢

「何で今日なんだよ！校長空気読めよ！てか、校長空気になれよ！空気に溶けるよ！」

携帯を取り出し、メールを送る。

国弘

「お、メール来た。」

太刀掛

「ホントだ！オラにも来た！」

相沢

「モンスター出現！校長が現れた！どうする？」

国弘

「命は大事に！」

太刀掛

「ガンガン行こうZE！！」

相沢

「ガンガン行こうZE！！って校長に一発かませってことか！？退学になっちゃうよ、俺！行くの漢字が逝くになっちゃうよ！」

国弘

「ほふく前進で背後からCQCをかけるんだ！」

相沢

「だからね、退学になっちゃうから、そんな事したら！！校長先生に首締めをして気絶させた高校生って新聞に載っちゃうから！！」

太刀掛

「でも時間が押してるよ。」

校長の空気読めない行動のせいで、すでに5分が経過していた。

相沢

「クソー！時間がないー！！」（裏声）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9908h/>

俺ステーション

2010年10月28日03時47分発行